

民主島根

2019年
2.17
第1330号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

4月の県議選(松江・出雲)勝利へ くらしといのちを守る県政を 尾村・大国県議が党後援会と宣伝



訴える尾村県議ら(写真上)、東出雲町後援会の集いで決意表明する尾村県議(写真左下)



女性後援会とともに宣伝する大国県議(1日、出雲市)

日本共産党の尾村としなり、大国陽介の両県議は2日、松江、出雲の両市でそれぞれ宣伝行動などに取り組みました。尾村県議は、党青年後援会のメンバーと市内を遊説して回りました。尾村氏は「自民・公明県政は安倍内閣いなりで、島根原発の再稼働を推進し、消費税10%増税も容認するくらしに冷たい県政だ」と批判。「くらしや福祉を大切に、原発ゼロの安全・安心の県政を一緒に作りましょう」と呼びかけました。



「県知事選を考える市民のつどい実行委員会」は3日、松江市内で集会を開きました。安保関連

へ、子育ての願いを届けて頑張ります」と訴えました。ドライバーなどから手を振っての声援が寄せられました。また、子育ての願いを届けて頑張ります」と訴えました。ドライバーなどから手を振っての声援が寄せられました。

共闘の力で「原発ゼロ」の島根を

市民団体 県知事選を考える集い開く

「県知事選を考える市民のつどい実行委員会」は3日、松江市内で集会を開きました。安保関連

山崎泰子会長が呼びかけ、約70人が参加しました。集会では、島根原発の稼働反対を掲げた無所属候補の擁立をめざすことを確認。3氏は、市民と野党の共闘を呼びかけるとともに、政治団体「みんなで作る島根の会」の設立集会を16日に開くと表明しました。野党からは、日本共産党

安倍政治サヨナラ選挙にしよう

江津・菟野 中林よし子氏迎え集い

津和野町の日本共産党町委員会は7日午前、中林よし子参院鳥取・島根選挙区予定候補を迎え、集いを開きました。19人が参加し、半数以上は党外の人でした。中林氏は安倍政権が狙う消費税10%への増税に対し、「大企業、富裕層に相応の負担を求めれば



6日は江津市で中林氏を迎えた市委員会主催の集いが2カ所で開かれ、計60人が参加しました。森川佳英市議が参加しました。

の尾村としなり県議がスピーチし、「島根原発の再稼働を許さず、くらしを」と訴えました。(写真)

応援する島根をつくるために全力を尽くします」と訴えました。(写真)

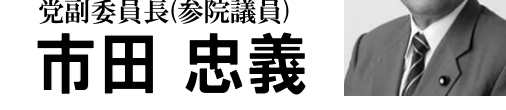
鼓動

いつぞやの小欄で愛車にターボを付けたいと書いたことがあった。結局、付けないことに決めた。色々と考えているうちにアクセルを踏んで時間差でターボが発動するということが不自然に感じられたからである▼アクセルを踏んだら踏んだだけ加速する、その感覚がダイレクトに体に伝わってくる、それが愛車と向き合う上で大切だと思えた。これからも自然吸気のエンジンとの対話を楽しみたい▼さて、「自然」で真っ先に連想するのは自然エネルギーである。原発をいまずぐなく、自然エネルギー・再生可能エネルギーの普及が急務である。安全な原発などありえない。実効ある避難計画は未策定、使用済み核燃料、高レベル放射性廃棄物の処理方法も未確定であり、核燃料サイクルはすでに破たんしている▼昨年9月の北海道胆振東部地震では全道が停電するブラックアウトが起きた。この事故の教訓は、電力の安定供給のためには大規模集中発電から分散型発電への転換が必要だということである。原発は大出力で、かつ出力の調整ができないという特徴があり、大規模集中発電の最たるものである。技術的に未完成な原発から分散型・自然エネルギーへの転換が急がれる▼とりわけ島根県は県庁所在地に原発があり、原発から30キロ圏内には47万人の住民がいる。原発のすぐ下には39キロの活断層、さらに活断層沿いには土砂災害危険箇所が1200以上もある。こんなところで原発を動かしてはならない。これからの連続する選挙戦で原発ゼロの声を島根から広げていきたい。(純)

くらしに希望を。力あわせ、未来ひらく。

日本共産党演説会

3月3日(日)



弁士
党副委員長(参院議員)
市田 忠義
■午前10時30分～ 出雲市
会場：朱鷺(とき)会館
■午後2時～ 松江市
会場：県民会館・中ホール